

NO. 132

# 泉南走ろう会

先鋒スポーツ社  
泉南 0724(83)4653

”  
バルセロナ五輪に思う

会長 遠健三

バルセロナ五輪が終ったと思えば、高校野球  
せの中は平和です。十五日正午サイレンを合図  
に、高校野球試合を中断、戦没者を追悼し、  
平和を祈念する。黙とうが行なわれ、したが  
中五園では大半の人が特別な思いがな、この  
事、これも時どきです。このことは表題に聞  
係がありませんが、なつとふく見ました。

さて、今回のオリンピック日本国民、総腫  
不足となりました。皆々皆、テレビを見るわ  
けでもないが、家の中の誰かが真夜中に  
忽然と起きて、朝までテレビを見る。テレビ  
を見ない家族の人。たまたまのびはない、腫  
眠不足となる。

オリンピックの結果、日本選手の出陣は  
「よく頑張った」という人、もうひとつであら  
「オリンピックに出ることは大変だ、選手は立  
派だ」とあまをさす。八月十一日付朝日  
新聞に古橋選手団長(日本オリンピック委  
員会長)は、「入賞も増えた反面、金

メダルは三個で目標の半分止まり、メダル  
四個にも届かなかった。単純に喜ぶ訳には  
いかない」とあまをさした。さあもうどうしよう。  
マラソンだけに言え、男子も女子も  
銀メダル、中山選手におおは、ゴールまで二  
〇〇メートルの所で、銅メダルを逃かしてい  
る、残念に思う。

私が思うのは残念ではあるが、この人達の  
執念です。次のアトランタをねらうというこ  
とです。

今回のオリンピックで私の一番印象に残った  
のは、金メダル選手のうれしそう、喜び顔  
もさることながら、柔道の小川選手、田村選  
手の残念、悔しそうな顔です。小川選手、柔  
道が終ってか、日本へ帰国しても燃然とした  
ふてくされた顔です。田村選手のこみスマ  
イルは消え、あの厳し顔は一番印象に  
残りました。そして、田村選手は試合前、オリ  
ンピックが終ると「休みたい、友達と話がし  
たい」と言っておりましたが、銀メダルとな  
ると「明日から負けたテレビを見て、練習を  
行なう」と言っておりました。「休みたいと言  
ていたのに、そうです」でも明日から練習を  
行なう。厳しい顔で取材記者と話してお  
りました。恐しい執念。田村選手は、オリ  
ンピックに出るために腕立仗せ、一日四〇〇回  
の他にも筋力トレーニングを行っておりま  
す。柔道の練習は一日六時間、八時間  
とのこと。マラソン選手も月間一〇〇キロ

以上走るとか。オリンピック選手がす  
べてこの様なトレーニングを行ってしま  
うです。さあもう今度のアトランタを目標と  
よくも続くものだと思えます。継続は力  
なりと言いますが、目標をもって執念で  
行なう。いや、参った。参った。バルセ  
五輪に思う、選手の執念について。

私達はオリンピックの選手でもない。  
こんなことをするとこね(死)てしま  
余り無理をしないで目標をもって執念で  
トレーニングをいたしなう。



富士山挑戦記

松井 裕香

\*六月三十日 雨。 富士登山競走まであと二十五日となった今日、外は台風が近づいていて雨が降っている。まだまだ時間はあると思っていたのにもう7月は目の前に迫っていると思うと不安になってくる。『登り坂はどれくらいきついのだろう？』 『馬返してどんな所だろう？』 『路面はどんな感じかな？』・・・って。

焦っていても仕方がない。明日雨がやんだら走りに行こう。不安は練習をすることでないと紛らわせないから・・・。

\*七月八日 晴れ。 仕事を終え、いつものように練習に向かう。堀河の坂を練習場にしまして三十日が経ったけど、『初日の頃よりは少し走れるようになったかなあ』って感じで、あまり変化はないように思う。変わったことというと、『私は登り坂はだめ！少しでも登っているとイヤ！登り坂は大嫌い！！』という気持ちが頭から消えたことかなあ。でもこれは私にとって大きな成果。  
「継続は力なり」でガンバロウ。

\*七月十六日 曇。 今日、参加証のハガキが届いた。あと九日。もうひと踏ん張りだ！

\*七月二十四日 晴れ。 とうとう出発の日がやってきた。電車やバスを乗り継いで行くうちに、だんだん緊張してくる。『やれるだけの事はやった』と自分に言い聞かせ、大会当日の朝を迎えることにする。

\*七月二十五日 晴れ。 いよいよスタートだ。七時三十分。山頂コースの宮下さんと真鍋さんを見送って、九時になるのを待つ。弱気になっていると、走れるものも走れない。それじゃあ今まで頑張ったのがバーになってしまいうんか。私は自信満々の顔でスタートした。快調にレースを進めたが、馬返しの手前から少しバテてきた。近くを走っていた男の人にブドウ糖をもらい、励ましてもらい、やっとのことでゴールした。苦しくて苦しくて『こんなレースは二度と来ないぞ』と何度か思ったけど、五合目からの景色を見て『また挑戦するぞ！』と考えていた。(単純な私である)でもこれだけはハッキリ言える。『超自信があった！今年の夏は走り通すよ』って！

お知らせ

一、例公日 八月二十三日 午前九時

一、場所 新家種河神社前広場

一、コース 皆と相談して決める

但し、長い距離、短かい距離の二班に分かれ走る。

一、案件

① 大公参加者確認について

イ、カヤ大江山登山マラソンに

②/27

ロ、高野山ウルトラマラソンに

③/25

ハ、びがわマラソンに

④/8

ニ、福知山マラソンに

⑤/23

ホ、その他(吉野川ロードレースに

⑥/17)

⑦その他

第四十五回

富士登山競走に参加して 遠健三

こんなレース誰が考えた。過酷な一番だ。か  
らこも走る。なせ走るか、そこに山があるからだ  
バカじゃなっただろうか。

富士山は、遠方から望んでこそ、なだらかで  
美しい。しかし、山頂を目指すランナーに対し  
ては、どこまでも続く急斜面と、ごつごつした  
岩肌で行く手をばねむ。そして気温の激変

日本一厳しい登山マラソンである。それが七月  
二十五日に行われました。真鍋さん、宮下さ  
んは頂上コースに、松井さんは五合目コース  
に参加、私は余り気がすまなかつたが五合  
目コースに参加することにした。

六月二十五日の新聞に、今年富士山が雪  
が多く登山中止とありました。しめしめ、私  
はろくに練習もせずに登山競走中止するの  
を待ちました。ひたすら中止を待つ。すると

七月六日頃、富士山は山開きしたそうなの。  
そして大分一週間前に選手受け票が届い  
た。さあ、このなればどんなことがあるかも完走  
するぞ、ヒギナーの松井さんに負けてしま  
うか、闘志が湧く。さらば富士登山競走  
に挑戦だ。

真鍋さん、二年前の完走好タイムをさら  
に短縮を目指す。宮下さん完走可能な  
頂上で逆立ちを。そして友人のために頂上  
石を持ち帰ると意気込む。

松井さん、完走できるかどか不安なため、声  
なし。私、松井さんには負けなぞ、カンバ  
あるのみ。

さて、頂上コース七時三十分スタート。それま  
で雲にかれ、全然見えなかつた富士山が木ッ  
カリと海を現わす。雪に粉られ、それはそれは  
素晴らしい景色だ。でも高く高く登れる富士  
士はランナーの行く手をばねむでしよう。

松井さんに「あの連中、富士を見ずに行たか  
らよいが、あれを見たならば、へなへなとなる  
であろうがあれ」と話す。

後で知ったことであるが、スタートしてから直  
ぐに富士が見えたそうなの。

五合目コース午前  
九時スタート。  
どうも、かんが  
四つのようにスピー  
ドが出ない。でも  
森林浴コースと思  
えば快適だ。

五合目までは樹木が  
ある。途中エイドステーションで、水、梅塩  
がある。場を口に含む。あ、おいしい、実に  
甘い。塩がこんな甘いとは知らなかつた。こ  
らが問題だ。ここが馬返しと言って、ここから  
は走ることが出来ない。如何に駆上るか  
だ。真鍋さん、宮下さん、ここを通過したん  
だなあ。松井さんも先に行っている。チキチキ  
ゴールする。まさますのタイムだ。松井さん



んに「私はゴールする時、先にゴールして  
いるならば迎えにこんなかえ」とボマク  
と、松井さんを追い抜くことができた  
かった。残念だ。

松井さんと頂上コースの真鍋さん、宮下さ  
んを待つ。待てど暮らせど、彼等は帰ら  
て来ない。松井さん「何時まで宮下さんは  
逆立ちしているのかなあ」。

遂に彼等は帰て来た。二人ともタイム  
オーバーだ。宮下さん五分オーバー。二  
人とも敗退する。残念である。

こんなものだ。そう簡単には完走で  
きない。毎年完走率は50%から60%だ。  
このことは初めからわかっている。また、当  
日の気候により、完走は大変難かしい。

でもこれに挑戦することは立派だ。来  
年やもう止めにするか、また挑戦するかは  
本人の心掛ける次第だ。頂上コースは四  
十五分から五十分まで引き上げられたと  
どもあり、まだまだ挑戦する機会  
がある。大いに頑張てほしいと思う。

追記  
彼らは敗退した。笑う人があれば、  
頂上コースでも五合目コースでも挑戦  
してからにしてほしい。

彼らの名譽のために附記する。